

「前世療法」を体験！果たして誰だったのか？

前世療法というセラピーがある。催眠療法の一つで、催眠状態にさせたクライアント（患者）を生まれる前の状態に遡らせ、前世を覗く療法である。

1988年にアメリカのブライアン・L・ワイス博士の著書「前世療法」の出版以来、科学的な手法として認められてきている。

人は誰でもトラウマ（精神的外傷）を持っている。その原因が、幼児体験である場合もあるし、前世の体験に基づいている場合もあるという。そのトラウマを克服するためには、原因を知りそれに対処する必要がある。セラピーという以上、前世を体験するだけでなく、それにより現世の悩みを解消するのだ。

向かったのは催眠療法Camellia（カメリア）。NGH（米国催眠士協会）認定資格を持つヒプノセラピスト、緒方妙子さん



セラピストがリラックスできるよう誘導している。

©米沢祥

のカウンセリングルームだ。

緒方さんによれば、催眠療法といってもトランス状態になって、あらぬことを口走るのではなく、リラックスした中で、心に湧いてくるイメージを捉えるようにするものだという。

療法はリラックスできるように、室内の光を落とし、ゆったりとした語りかけで始まる。やがて「目の前にお花畑が現れました。どんな花が咲いていますか」と潜在意識に働きかける質問から始まる。

前世にも顔見知りの人々が

「家があります。入ってみましょう。あなたは誰といますか。周りを見回してください。知っている人はいますか？」

前世療法で見える前世には、現世の知り合いが登場するという。現世では夫婦でも前世では嫁と姑だったり（性別を超えて転生することもある）、現世での自分の子が、前世では母親だったり。そうした人間関係が現世のトラブルを引きおこしている可能性もあるそうだ。

今回の体験者は、前世では親も兄弟もなく、おばあちゃんに育てられたそうだ。

結局、セラピーは3時間続いた。リラックスして心を開くためには、それくらいの時間をかけて行くといいそうだ。

緒方さんによれば、前世は自分が考えているほどドラマティックではないことが多いとか。

体験者に話を聞くと、「意識はしっかりしていました。目を閉じていましたが、眠っているわけでも起きていないわけでもなく……。前世のイメージは眼前ではなく、脳の後ろの方にスクリーンがあって、そこに映し出されるようにして見えました。かなりはっきりしたイメージでした。まったく地味な一生でしたが（笑）」。

Camellia

<http://www.hypno-camellia.com/>